

第 I 部  
研究の概要

## 第 I 部 研究の概要 もくじ

1	研究の目的	1
2	研究の方法	1
3	研究計画の概要	1
4	研究の組織	3
5	本年度の研究の成果と課題	4
6	その他	5

## 1 研究の目的

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、主体的行動力、構想力、そしてコミュニケーション能力の育成に向けて、外国語（英語）科及び理科の学習活動について、学習到達目標を明確にしたパフォーマンス課題及びルーブリックを作成し、評価を行う。この評価手法の妥当性・信頼性を高め、生徒の資質・能力の向上を図るために実践的な調査研究を行う。

## 2 研究の方法

### (1) 研究の組織づくり

県教育委員会高等学校教育課、総合教育センター、研究協力校が、筑波大学、名古屋大学、明治大学及び愛知教育大学から指導助言をいただきながら、連携して研究を進める。円滑に研究を推進するために、高等学校教育課内には「評価手法検討会議」を、総合教育センター内には「高等学校における多様な学習成果の評価手法に関する研究会」（以下「評価手法に関する研究会」という）を、研究協力校内には「校内研究委員会」を設置する。

### (2) 多様な評価手法に関する理論

評価に関する知識を深め、研究の質の向上を図るために、「評価手法検討会議」や「高等学校における多様な学習成果の評価手法に関する研究会」において、各大学の先生方から多様な評価手法の在り方について講義をいただき、研究に役立てる。

### (3) 先進的に取り組んでいる研究機関や学校への訪問調査

本研究に関わる調査研究を、先行的に実施している教育機関及び学校を訪問して、研究の方法、研究成果及び課題について調査し、今後の研究の進め方を検討する。

### (4) 研究協力校における実践研究

研究協力校として、外国語（英語）科の研究を県立惟信高等学校に、理科の研究を県立一宮南高等学校に依頼して、多様な評価手法の在り方について実践的な研究を推進する。

### (5) 本年度の研究の成果と課題の明確化

複数回に及ぶ授業実践や評価手法の検討から、信頼性・妥当性の高い評価モデルを検討し、その成果と課題を明らかにする。

## 3 研究計画の概要

<本年度の研究計画>

### (1) 調査研究に当たっての準備及び各種委員会の設置（9月から11月）

大学等の学識経験者と研究の進め方等について打合せを行い、本年度の研究の方向性を探る。また、評価手法検討会議（高等学校教育課）、評価手法に関する研究会（県総合教育センター）、校内研究委員会（研究協力校）を設置し、随時開催する。

### (2) 先進的に取り組んでいる研究機関や学校への訪問調査（12月から2月）

先行的に本研究に関わる調査研究を実施している他府県及び学校の訪問し、パフォーマンス評価についての情報収集を行い、妥当性・信頼性の高い評価モデル開発の在り方について検討する。

### (3) 研究協力校における評価場面や評価手法等の検討及び評価の実施（11月から2月まで）

校内研究委員会を開催し、評価手法検討会議や評価手法に関する研究会の指導・助言を踏まえ、評価を行う具体的な授業場面や評価手法等の在り方について検討する。また、評価を実施して、校内研究委員会で成果と課題を検討する。検討結果は、評価手法検討会議や評価手法に関する研究会で報告

し、更に検討を加える。

#### ア 惟信高等学校の調査研究

外国語科の「コミュニケーション英語Ⅰ」及び「英語表現Ⅰ」において、「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」及び「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の評価の観点に対応した、インタビュー、スピーチ、サマリー・ライティング、エッセー・ライティング等の実技テスト、パフォーマンス課題及びルーブリックの素案を單元ごとに作成し、実際にルーブリックを用いてパフォーマンスを評価する。

#### イ 一宮南高等学校の調査研究

理科の「物理」において、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「観察・実験の技能」及び「知識・理解」の評価の観点に対応した平素の授業を評価するためのルーブリックの素案を作成する。また、各小単元の学習の最後にパフォーマンス課題に結びつく小課題を設定し、ワークシート及びレポート等から評価する。

#### (4) 研究成果の発表会の開催（2月）

調査研究内容について、普及還元を目的とした各研究校における研究発表会を開催する。

#### (5) 研究成果報告書の発行（3月）

研究成果をまとめた報告書を作成し、県内高等学校及び関係機関に配付する。

< 2年目、3年目の研究計画 >

#### (1) 研究協力校における評価場面や評価手法等の設定（4月から5月まで）

評価手法検討会議や評価手法に関する研究会、校内研究委員会を開催し、1年目の調査研究の成果と課題を踏まえて、具体的な評価場面や評価手法等について検討する。

#### (2) 研究校における評価の実施（6月から1月まで）

初年度の2校の研究校については、各教科の研究科目を拡大する。さらに、2校の研究成果を踏まえ、研究校を5校に拡大し、研究対象を5教科とする。

#### ア 惟信高等学校の調査研究

平成25年度の研究科目に、平成26年度は「コミュニケーション英語Ⅱ」と「英語表現Ⅱ」を、平成27年度は「コミュニケーション英語Ⅲ」を加え、研究を行う。

#### イ 一宮南高等学校の調査研究

平成25年度の研究科目に、平成26年度は「化学基礎」と「化学」を、平成27年度は「生物」を加え、研究を行う。

#### ウ 調査研究の拡充

英語と理科の2教科から5教科の共通教科に研究対象を広げる。また、評価手法検討会議においては、産業界及びキャリア教育に詳しい有識者の意見を踏まえ、社会・職業への移行に必要な資質・能力を育成する視点から、事業の成果を評価し、必要に応じて次年度の事業計画を修正する。

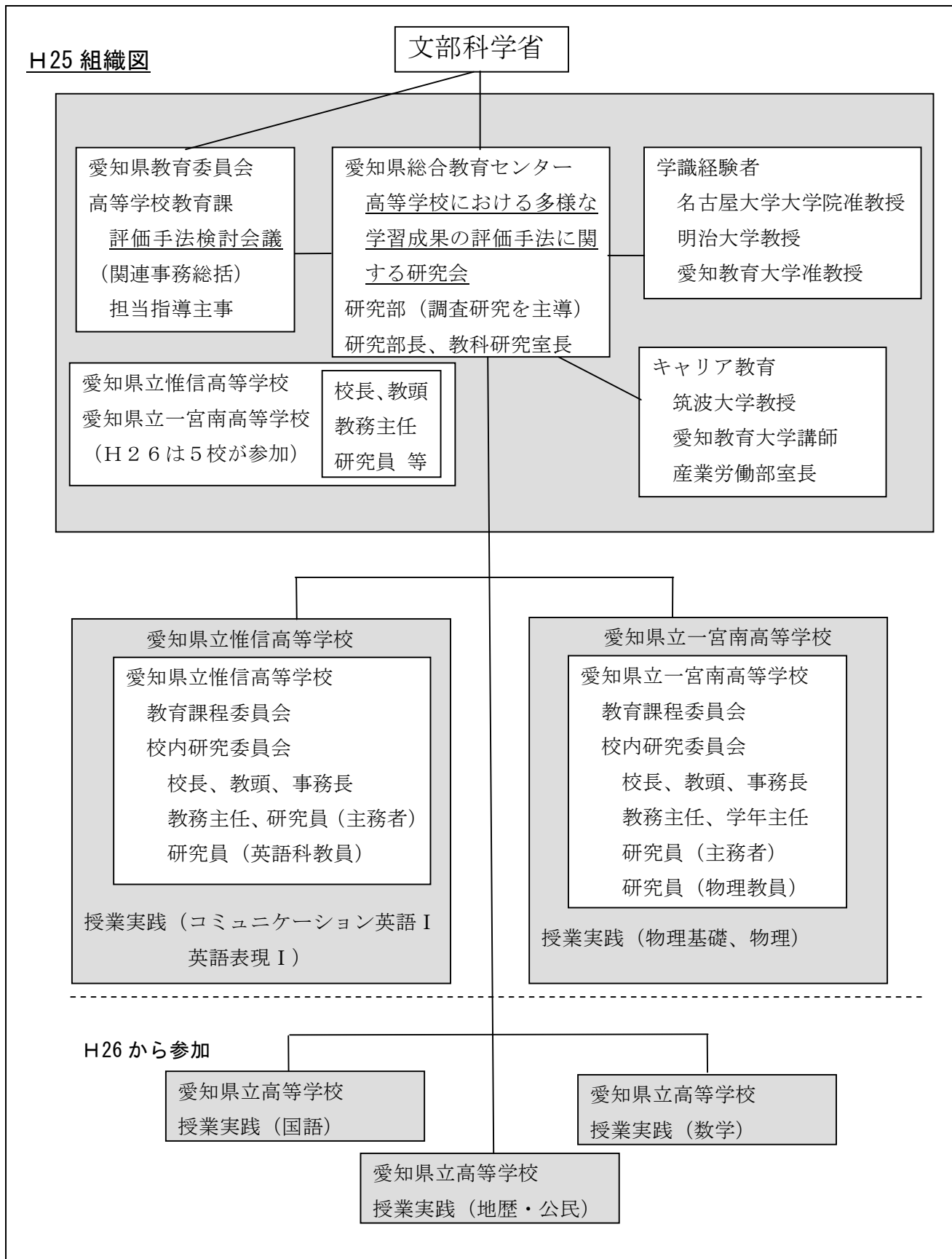
#### (3) 研究成果の発表会の開催（11月）

県総合教育センターにおいて研究発表会を開催し、該当年度の調査研究内容について報告するとともに、その成果と課題を明らかにし、他校への普及・還元を図る。

#### (4) 研究成果報告書の発行（3月）

研究教科・科目における単元（評価場面）ごとの研究成果をまとめた報告書を作成し、県内高等学校及び関係機関等に配付する。

#### 4 研究の組織



## 5 本年度の研究の成果と課題

### (1) 研究協力校の実践から得られた成果

#### ア 愛知県立惟信高等学校の実践から

パフォーマンス評価を実施することにより、生徒の学習意欲が向上し、より積極的に言語活動に取り組むようになった。そして、ルーブリックを事前に生徒に提示することにより、重みを付けた観点についてのパフォーマンスの向上が見られた（作文に用いる語数、スピーチでの声の大きさ、アイコンタクト等）。また、ルーブリックには「学習の指針」と「評価基準」の二つの側面があるので、パフォーマンス課題に取り組ませる際の事前指導・評価・事後指導を、より具体的に行うことができるようになった。

#### イ 愛知県立一宮南高等学校の実践から

物理における実践では、授業で行う実験は、単に学習した知識を確認するものではなく、実験結果を考察することにより、関係式が導き出せることを学んだ。また、教科書に載っている値や式がどのようにして導き出されたかを体験することにより、学習が知識の習得で終わらず、さらにその理由の解明や教科書に載っていない内容の学習等に対して、関心・意欲が高まった。評価の量的・質的結果については、現在、分析中である。

### (2) 研究協力校の実践から明らかになった課題

#### ア 愛知県立惟信高等学校の実践から

パフォーマンス評価を実施するには、事前計画・実施・採点・事後指導に多大な時間を要し、担当教員への負担も大きい。年間学習指導計画を作成する際に、英語科全体で実施方法を検討する必要がある。また、学習到達目標としてのCAN-DOリストから年間学習指導計画・単元構想・実際の指導と評価への関連付けが十分ではなかった。特に単元構想の段階で、指導に対応した評価方法を検討する必要がある。

#### イ 愛知県立一宮南高等学校の実践から

年度途中より実践を始めたため、理論的な裏付けが十分ではないまま課題を設定し、実施した場面もある。今後は、理論的な整合性を高め、効率の良い課題と評価を実践していきたい。また、物理における研究成果を、他の科目にも生かせるように、他科目、さらには他教科の担当者とも積極的に関わる必要がある。

### (3) 研究の今後

評価にルーブリックを導入することは、指導と評価の一体化を進める上で、課題を解決するための思考力・判断力・表現力や主体的行動力、コミュニケーション能力等が、生徒にどのように身に付いたかを捉えることができる。また、生徒の能力の定着度を可視化された形で測ることができるため、次の指導改善に生かしやすい。

生徒の資質・能力の育成を目指す上で、日々の学習成果を活用した形成的評価は喫緊の課題である。その具体的手法として、ルーブリックの作成をより多くの教科に普及し開発することは、平常の授業における生徒の姿を観察する力の向上にもつながり、授業改善の上で高い成果が得られると予想される。今後さらに研究を進めていく必要がある。

## 6 その他

### (1) 評価手法検討会議委員一覧

氏名	所属	具体的な役割分担
藤田 晃之	筑波大学人間系教授	評価手法検討会議の指導・助言
柴田 好章	名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授	評価手法検討会議座長
尾関 直子	明治大学大学院国際日本学研究科教授	外国語科指導・助言
平野 俊英	愛知教育大学理科教育講座准教授	理科(物理)指導・助言
高綱 睦美	愛知教育大学学校教育講座講師	評価手法検討会議助言
大沢 昭信	産業労働部産業人材育成室室長	評価手法検討会議助言
小塩 卓哉	愛知県総合教育センター研究部長	調査研究の代表
福島 宏	愛知県教育委員会主査	評価手法検討会議助言
山脇 正成	愛知県教育委員会指導主事	理科(物理)の助言
関 友彦	愛知県教育委員会指導主事	外国語科の助言
栗本 整	惟信高等学校・校長	惟信高等学校の研究総括
織部 秀明	同・教頭	同校の研究の渉外・運営
宮田 剛	同・教諭(英語科主任)	同校研究(主務者)
井中 宏史	一宮南高等学校・校長	一宮南高等学校の研究総括
野々垣晴邦	同・教頭	同校の研究の渉外・運営
中島 美幸	同・教諭(理科主任)	同校研究(主務者)
齋藤 育浩	愛知県総合教育センター教科研究室長	調査研究の総括
米津 明彦	愛知県総合教育センター研究指導主事	外国語科の調査研究(主務者)
米津 利仁	愛知県総合教育センター研究指導主事	理科の調査研究(主務者)

## (2) 会議日程一覧

## ア 評価手法検討会議

	日時及び会場	内 容
第1回	12月9日(月) 県総合教育 センター	○研究概要, 研究のねらいについて ○研究成果の発表会の開催について ○研究成果報告書の作成について ○【講演】多様な学習成果の評価手法について 講師 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 柴田好章 先生 ○【分科会】各教科の特性に配慮した評価手法についての協議 指導助言 〔英語〕明治大学大学院国際日本学研究科教授 尾関直子 先生 〔理科〕愛知教育大学教育学部理科教育講座 平野俊英 准教授 〔キャリア教育〕愛知教育大学教育学部学校教育講座講師 高綱睦美 先生 産業労働部産業人材育成室室長 大沢昭信 氏
第2回	1月30日(木) 県立一宮南 高等学校	○研究経過報告及び質疑応答 県立惟信高等学校及び県立一宮南高等学校 ○県外訪問調査の報告及び質疑応答 ○研究協力校の研究発表会について ○研究成果報告書について

## イ 評価手法に関する研究会

	日時及び会場	内 容
第1回	9月10日(火) 県総合教育 センター	○「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」についての共通理解 ○研究会の研究の方向性についての確認及び計画 ○県外訪問調査について
第2回	10月11日(金) 県総合教育 センター	○【講義】多様な評価手法について 講師 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 柴田好章 先生 ○研究協力校の取組状況等について(英語、理科より)
第3回	12月5日(木) 県総合教育 センター	○第1回評価手法検討会議の協議内容等について ○研究協力校の取組状況等について(英語、理科より) ○研究成果の発表会の開催について ○研究成果報告書の作成について ○次年度の研究についての情報交換
第4回	1月24日(金) 県総合教育 センター	○パフォーマンス評価に関する論文の研究 『パフォーマンス評価による学習の質の評価 - 学習評価の構図の分析に基づいて-』京都大学高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代 ○指導助言 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授 柴田好章 先生
第5回	2月14日(金) 県総合教育 センター	○研究協力校の取組状況の報告及び質疑応答 県立惟信高等学校及び県立一宮南高等学校 ○キャリア教育の視点を取り入れた研究に向けて 指導助言 筑波大学人間系教授 藤田晃之 先生 愛知教育大学教育学部学校教育講座講師 高綱睦美 先生 ○高等学校における多様な評価手法に関する研究の方向性
第6回	3月13日(木) 県総合教育 センター	○研究成果報告書 ○次年度の研究についての方向性の検討 ○パフォーマンス評価など多様な評価手法についての情報交換